

「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現に向けて

本市では、まちづくりの指針となる第二次山陽小野田市総合計画を平成 30 年（2018 年）3月に策定し、将来都市像であり、また、市のキャッチフレーズにも掲げる「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現に向けて、前期基本計画に示す施策を推進してきました。

しかしながら、本市を含め、全国的な少子高齢化には歯止めがかからず、2040 年には人口減少が深刻化し、高齢者人口がピークを迎えることが予想されていることから、国の地方制度調査会は、持続可能な地域社会を維持するためには、地方行政のデジタル化、公共私（行政、コミュニティ組織、NPO、企業等）の連携、広域連携等が必要であると提言しており、自治体においてもより一層の対応が求められています。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、大きな社会情勢の変化をもたらしており、そうした社会の変容にも臨機応変に対応していく必要があります。

このような状況の中、まちづくりの基本理念である「住みよい暮らしの創造」を推進していくためには、多様な担い手が協力してまちづくりに取り組む「協創によるまちづくり」が必要です。そして、「協創」の考え方を機軸として、多様な担い手がまちづくりの方向性を共有するための指針となるものが総合計画です。

総合計画においては、社会情勢の変化や、新たに発生した行政課題への確に対応するため、「協創によるまちづくり」の考え方を新たに組み込むなど、基本構想の一部を改訂するとともに、前期基本計画における4年間の市政運営で残された課題を踏まえつつ、基本構想に掲げる将来像を実現するため、令和4年度（2022年度）から令和7年度（2025年度）までを計画期間とする中期基本計画を策定しました。

「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現に向け、重点プロジェクトである「3つの創る」や「3つの横断的施策」に掲げる施策を中心に、市民の皆様や本市に関わる全ての方と力を合わせながらまちづくりに取り組みたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

最後に、この計画の策定に当たり、熱心な御審議を重ねていただきました基本構想審議会委員の皆様、アンケートやパブリックコメントで御意見をお寄せいただいた市民の皆様に、心からお礼を申し上げます。

令和4年（2022年）3月

山陽小野田市長 藤田 剛二

